

音大生を対象にオリジナル楽曲のオーディションをおこなう「音大生限定オーディション」。純クラシックの演奏は対象外ではあるが、作曲も手がけるピアニストにとって活躍のきっかけとなるかもしれない。

これまでクラシックをはじめ他の音楽ジャンルも担当され、現在新人発掘育成担当プロデューサーを務める重野さんにお話をうかがった。



学生さんに参加してもらっておこなわれる審査。現在第2回オーディションの審査が進行中！

音大生限定オーディション  
<http://www.emi-artists.jp/ondai>

中村天平オフィシャルサイト  
<http://www.tempei.com>

## プロなら、自分の音楽を人に伝える行動と努力は当然のこと

EMIエンターテインメント・ジャパン 音大生限定スカウトオーディション Great Hunting グループ プロデューサー 重野知央さん（新人発掘育成担当）

「オーディション開催された第1回オーディションがきっかけとなり、ピアノの自作自演曲集でEMIよりメジャーデビューを決めた中村天平さんは、18歳までガテン系の仕事をした後、やはりピアノこそが進むべき道だと努力を重ねて大阪芸大に入学。首席で卒業後はNYで研鑽を積んだ。『彼の場合、プロになろうと決意したとき、人に聴いてもらうというストリートで演奏し

たり自主盤CDを制作したり、行動を開始しました。このオーディションもそのCDを聴いた知人から教えられたのです。プロのアーティストとは、人がお金を払う表現者、ということですから、まず人様に聴いてもらうための行動と努力は当然のことです。黙って見てもらうだけでは、なんて図々しい！」

「純クラシックは再現音楽なので、一般の人からすると弾き手による違いがわかりにくいという意味で、CDデビューのチャンスをつかむのがより難しいと思います。そのため、とくに日本では客観的な評価が必要となり、コンクールなどが重視されるのかもしれない。個性を出し、世に出るきっかけとしては、オリジナル楽曲で勝負するのかもしれない手でしょう」

シャネル・ピグマリオン・デイズに関する開催日程や参加ご希望等お問い合わせは下記まで  
シャネル・ネクス・ホール事務局 03-5447-3079

## 生き方の考えや知識があることは、ボディブローのように効いてくると思っています

東京ニューシティ管弦楽団 作田忠司さん（事務局長）



3月21日（金）19:00 東京芸術劇場大ホール  
[出演] 内藤彰（指揮）、川島成道（ヴァイオリン）  
4月25日（金）19:00 東京芸術劇場大ホール  
[出演] 曾我大介（指揮）  
6月15日（日）14:00 東京オペラシティコンサートホール  
[出演] 内藤彰（指揮）、河合優子（ピアノ）  
東京ニューシティ管弦楽団 事務局 03-5933-3266  
ホームページ <http://tnco.or.jp/>

★6月15日、内藤彰・指揮、河合優子・ピアノによる日本初演 ナショナル・エディションによるショパンのピアノ協奏曲第2番が聴ける第56回定期演奏会チケットを5組10名様に！

「いつも何か新しい」をキャッチフレーズに、最新の研究を反映した楽譜や演奏法を採用するなどの挑戦を続けている東京ニューシティ管弦楽団。その事務局長を務める作田さんは、レコードレーベルや音楽事務所での経験を通して、長らくクラシック業界の動向と新人ピアニストの動きを見てこられた。

理由をうかがうと、明確な基準はないとしたうえで、ひとはコンクールの優勝などのきっかけ、もうひとつは人脈だということ。 「ただしコンクールがきっかけとなる場合、その基準は優勝者の技量や才能というより、コンクールそのものの価値や注目度の高さゆえの起用ということです」

「再現芸術であるがゆえのクラシック音楽の『教育性』、音楽にとつての『聴衆の存在』、また、人との関係性や、世界や環境との交流、その機能や仕組みなどを理解しようとする欲望をもつこと……音楽の感動を人々と共有し、なによりもコミュニケーションの能力を高めることこそが、今の若いピアニストたちには必要なのではないでしょうか」

## 自分と向き合うために、紙と鉛筆を持って目標を書くこと

若手アーティスト育成に関わるプロデューサー 株式会社CAP代表取締役社長 坂田康太郎さん



「まず10年後の『アーティストとしての姿』『収入』『プロジェクト』を増やすためにどうしたら良いのか悩んだり、純粋な演奏活動以外の仕事にためらいを感じたりといった迷いの解決にもつながる『目標設定の方法』を提案してくれた。

「次に、アーティストとしての姿なのか、収入なのか……4項目に優先順位をつけま

「再現実業であるがゆえのクラシック音楽の『教育性』、音楽にとつての『聴衆の存在』、また、人との関係性や、世界や環境との交流、その機能や仕組みなどを理解しようとする欲望をもつこと……音楽の感動を人々と共有し、なによりもコミュニケーションの能力を高めることこそが、今の若いピアニストたちには必要なのではないでしょうか」

「世界で活躍されている方は、みな常識人であり、人として魅力的です。芸術家なんだから浮世離れしていてもいい！ というのはおかしいと思います。音楽は、人を救えるんです。もしもご自身のされていることが世のため人のためになると思っているなら、演奏に共感し協力してくれる人を探し、売りこみするのは恥ずかしいことではありません。私にできるのは絶対的な尊敬をもってアーティストを応援することだけです。社会に出るため、その仕組みを教えてください。その場所ってクラシック業界ではこれまでありませんでした。それを説明していくことが僕の使命だと思っています。ですから、芸術家として悩みをお持ちの方とお話をしたいですね」